

極まりないものです。
日本は農政の対象から排除する、こんなやり方は歐米では行っています。
また、日本のような東アジアモンスター地域の水田中心の農業は、水の管理や里山の保全がが必要で、それは農村に住むすべての人の参加が必要です。助成対象を限るというのは、環境・国土の保全・維持に寄与している人に差をつけるもので、農村をみんなで守るうとする意欲をくじき、国土の崩壊につながる危険

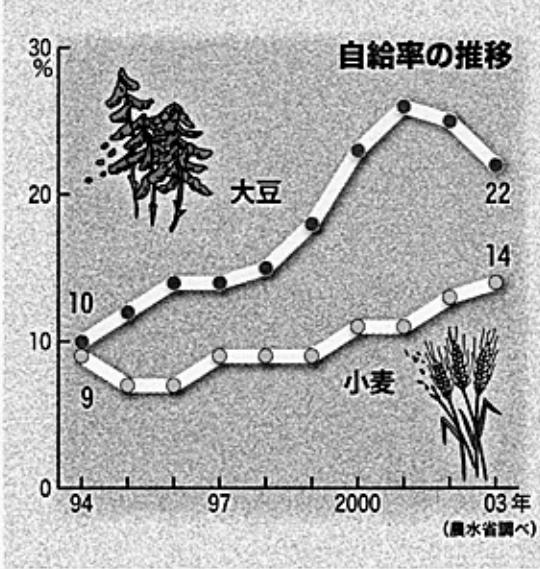
村田 武さん

愛媛大農学部教諭
農産物貿易論

狙いは農業予算の削減

転作作物として、少し上向いてきた麦や大豆の自給率はあつという間に下がるでしょう。

政府の本当のねらいは、農業予算の削減であり、国が農業から手を引こうといふことです。それでは自給率の向上や安心・安全な食料を求める国民の願いに応えられません。とくに、麦や大豆の生産を拡大するためには、米の価格帯を放置せず、最低価格扶持がゼひと必要になつています。



中小農家の助成を廃止

今国会で審議中の農政改革関連法案は、麦や大豆など品目ごとの価格支策をやめ、助成金を一部の大規模農家や法人（個人4%、北海道では10%、集落営農20%）だけに支給することになります。

小泉農政でピンチ



共産党はこう考えます



日本共産党は5月15日に、助成対象農家を選別する政府の農政改革関連法案について「見解」を発表しました。（全文は日本共産党的ホームページに掲載）



“もっと作りたい”

各地で国产大豆を育てる取り組みも。「ふくしま大豆の会」の枝豆祭り（福島県=右）、みのう農民組合の収穫目前の大豆畠（福岡県=左）



色づき始めた埼玉・熊谷市の小麦畠（上）、
「ワインク」で金を担当する戸森久美子さん

アメリカ・カナダ産小麦などをからは、収穫後に添加された農薬（ボストハーベスト）として、有機リン系農薬が検出されています。（別表）

農民連合会分析センター所長の石黒昌孝さんは、「学校給食の輸入小麦のパントからも残留農薬が発見されています。これらの農薬は環境ホルモン作用があり、視神経に影響を与え、アレルギーの原因にもなり、子どもにとって有害です」と指摘します。

給食のパンからも農薬

輸入小麦の残留農薬（04年農水省調べ）				
国	農薬種類	件数	検出件数	単位 (ppm)
アメリカ 産	クロルピリホスメチル	168	152	0.01~1.04
	マラチオン	168	166	0.01~1.28 (以下略)
カナダ 産	マラチオン	63	60	0.02~0.14 (以下略)

中国の大容量輸入などで国際的に需給が逼迫（ひっぱく）している大豆。世界では遺伝子組み換えの作付面積が年々増えていて、しかし、日本の自給率は4%（油用も含む）です。消費者と生産者が直接契約する大豆畠トラスト運動に取り組む茨城県南農民組合事務局長の小林恭子さんは、「米より収量の少な

い大豆は、交付金があったから作ることができます。しかし、このやり方（新しい政策）では9割の農家が交付金を受けられません。政府に日本の農業を守れ、もっと作らせて運動していきたい」。大豆畠トラストの問い合わせ先 電話03-3559 農民運動会

一部の大規模農家や法人だけに支援を限定する農業政策が始まろうとしています。いったい日本の農業や食料はどうなるのでしょうか？ 国産の小麦や大豆がピンチという声も——。君塚陽子記者

シリーズ 日本の食

金から次々と出される食パン・フランスパンに菓子パン・香ばしい香りが作業場に漂います。埼玉・熊谷市の「ワインク」は、国产小麦でパンを焼いています。店主の林修さん（51）は約20年前、難しいといわれていた国产小麦のパンづくりに挑戦。試行錯誤を繰り返し、成功しました。移動販売が主。夕方の保育園前では、「小麦の味がしておいしい」「安心して子どもに食べさせられる」と買う人がひききりなしに。埼玉県は日本でも有数の小麦生産地。地粉（じこ

なうどんは、北関東の文化でもあります。6年前、県産小麦のうどんやパンを学校給食にも導入しました。「この4、5年、安心・安全部長、入江三臣さんです。全国産小麦に食品産業もぐっと関心を強めていました。『これがいい』と頬を震らせます。『今度の政策でこれまで栽培していた人がやめるんじゃないか。小麦の自給率はやっと14%。また一ヶタに下がったら大変です』



「地粉のうどんはうまいと評判だよ」と話す斎藤さん（左）と笹井町議（5月20日）

6月は小麦の“実りの秋”。黄色く色づいた畑が広がります。斎藤辰一さん（77）は、夏から秋は稻、秋から夏までは麦と三毛作を行ってきました。規模が小さく助成対象にはなりません。

「これじゃ、肥料代や燃料代にどちらもならない。作れば作るほど赤字になります」と。5月29日、地元農協が農業生産法人を設立。斎藤さんも参加し、助成を

受け、生産を続けることになりました。法人参加のための出資金や面倒な手続を理由に却てやることも出ています。農業委員会長代理の斎藤さん、「結局、国は農家の生産を抑えたいのかどうか思えない」と言います。日本共産党的笹井町議は「この機にやめるとどうしていいのか」と斎藤さんと面倒なことをしなきゃならないのか

なりました。めの出資金や面倒な手続を理由に却てやることも出ています。町は、観光農園などに力を入れていますが、これでは遊休農地が増えばかり。小さい町の努力を国への施策が邪魔しているようなのです」

生産を抑えたいのか

受け、生産を続けることになりました。法人参加のための出資金や面倒な手続を理由に却てやることも出ています。

めの出資金や面倒な手続を理由に却てやることも出ています。町は、観光農園などに力を入れていますが、これでは遊休農地が増えばかり。小さい町の努力を国への施策が邪魔しているようなのです」